

登録団体 活動の広場

海外協力グループ“クスクス”

…日本の暮らしや文化を伝えて…

平成10年、高槻市ボランティア・センター有志が、パプア・ニューギニア大津波の被害地に救援物資を送ったのをきっかけに、翌年、海外協力グループ“クスクス”を結成しました。同年8月には在住外国人を対象に日本語教室を開き、これをメイン活動として拡大、現在会員約70名、学習者約100名で、毎週、日・火・水曜日に教室を開いています。



日本語教室では風俗習慣、生活の知恵など、日本の文化を伝えています。他に、お花見会、忘年会、各国の料理教室など各種の行事を担当する

日本に慣れるため

交流部会、会員のスキルアップや蔵書管理のための日本語部会、そして平成16年から月刊情報誌“クスクスだより”を発行する広報部会があります。

また、地域活動として「ふれあい広場」や「フェスタ」などへの参加。平成17年には「異文化理解のフォーラム」を主催、18年には高槻市立男女共同参画事業へ参画するなど、各種団体との連携も深め、市民と在住外国人との相互理解が図れるよう、いっそう異文化交流活動に取り組んで参ります。

連絡先・ 681-1391(城島)

NPO法人なごみの家

…高齢期を豊かに輝いて生きたい…

街かどデイハウスは、介護予防を目的とした、概ね65才以上の高齢者を対象にした、生きがい自立支援通所事業所です。「なごみの家」は2004年8月に開設しました。楽しいが一番をモットーに、健康チェックや転倒防止体操・花形のパソコン・認知症予防に効果が期待されている多彩な企画に取り組んでいます。

「高齢期を豊かに輝いて生きたい」この切実な願いを一人でも多くの皆さんに実現してほしい、そんな思いをこめて、地域のネットワークづくりを目標に活動していきます。

上記以外に、編み物、絵手紙、小物作り、書道、折り紙、囲碁、短歌、俳句、ビデオ鑑賞、フラワーアレンジメント、頭の体操、おしゃべりなどあります。お気軽におたずねください。

開所日：月・火・水・金

10:00～16:00

利用料 1時間57円

昼食 400円

1日利用で742円

お問い合わせ



いつもなごや

694-6062 栄町3-14-14

ナルク高槻・島本拠点

…生きがいある 地域ボランティアをめざして…

人生80年の時代、社会奉仕活動を通じて充実した人生を過ごすことを目標に、1994年大阪に誕生した全国組織です。「ナルク高槻・島本拠点」は設立10年。現在157世帯253人が各々の地域で「生きがい」「自立」「助け合い」「奉仕」をモットーに会員同士が助け合い、高齢者、独居老人の生活支援・協力をはじめ、障害児童の通学支援、子育て支援、環境美化清掃奉仕活動などに携わっています。一方会員同士の同好会も盛んで、ハイキング、ゴルフ、ナルクの輪等交流の中から新しいコミュニティを生み出しています。時間預託制度をとっており、奉仕活動することで、困った時に積み立てた時間を活用することもできます。会費は年額3,000円で、生活アドバイザーとしての調査研究、各種研修、出版物発行、企業調査などにあてています。皆さんのキャリア・経験が生かされる地域社会奉仕活動団体です。いつでも入会できます。 連絡先・ 萩原 690-0769



今日も元気で…

編集後記

サポートセンターの事務所のある小学校でも一年生の元気な声が聞こえてきます。子育て支援の団体がたくさんありますが、それは子育てにとって厳しい現状だということでもあるのでしょう。この子たちの育つ環境がどうか穏やかにと願わずにはおれません。

ニュースレターに関するアンケートにご協力いただきありがとうございます。回収率は24%でしたが、ご意見を参考にしながら、取り入れられるものはさっそく採用させていただき、少し前進を考えています。 衣川

高槻市市民公益活動サポートセンターニュース

e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp

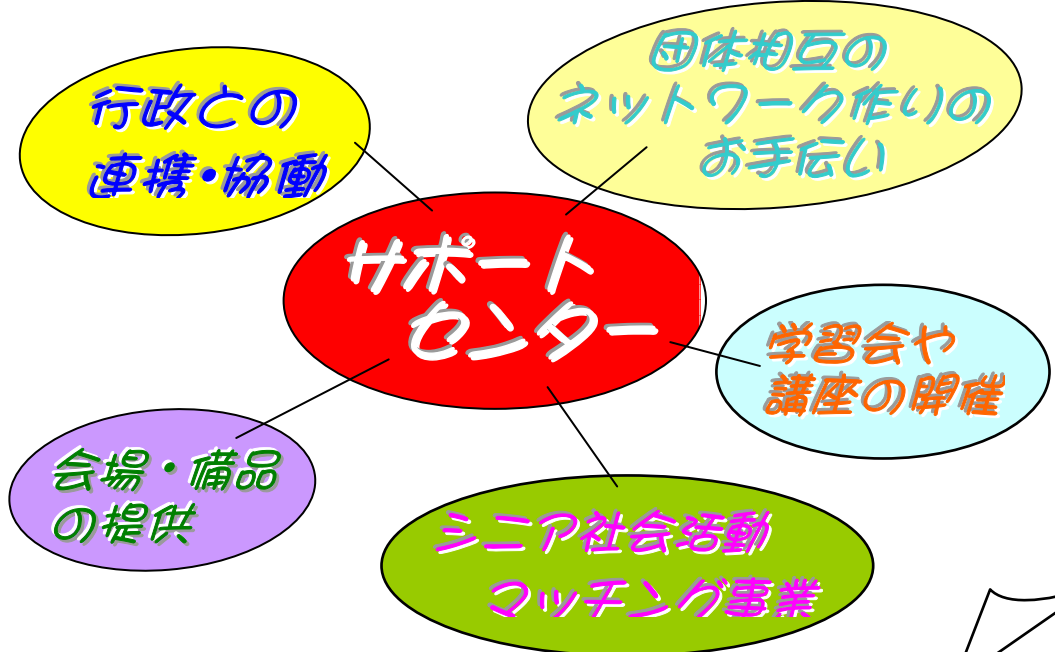
http://www.takatsuki kouekisuport.com/

発行 2008年(平成20)4月15日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所 〒569-0056 高槻市城南町3-1-1
西大冠小学校内
電話 072-674-3400
Fax 072-674-3401

ホームページが新しくなります

トップページです

市民公益活動を推進するために
サポートセンターではこんな事業をしています



サポートセンターのホームページを一新することになりました。これまでも部分的には改善してきましたが、昨年からは半年余りをかけて、基本点も含め、実情に見合った全面リニューアルをすることにしました。トップページはサポートセンターの業務をわかりやすく視覚に訴えるデザインにしました。サポートセンターに集まった情報を発信し「いま」をいち早く伝えていきたいと思えます。ぜひご利用ください。

ホームページの担当ボランティアスタッフは4名。新鮮な情報を更新できるような体制をとっています。ホームページに関するご意見や掲載してほしい情報があれば、ぜひお寄せください。より身近な情報源になるように改良を重ねていきたいと思えます。

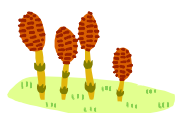


暮らしが少しずつ変わろう

これから徐々に変わります

目次	次
1面 ホームページが新しくなります	3面 「市民活動の現場から」・・・子どもを預かる

お役にたちましたか



19年度の講座終了

補助金・助成金講座
11/15、11/22

会計相談会
3/3、10、14、17

情報誌・広報紙作成講座
2/2、2/9

サポートセンターの19年度の講座の特徴は大阪府・高槻市との共催による「NPOとの協働推進パワーアップ事業」として2講座を持ったことにあります。どちらも大阪ボランティア協会のスタッフを講師に開催し、それを受けてのサポートセンター独自の講座や市との協働の講座を持つことで、受講生により深く理解してもらえたのではないかと思います。

また、会計・税務に関しては、団体個々に対応して、具体的に解決に当たれたのではないかと思います。

さっそく応募しました

補助金・助成金講座(参加者1回目22人・2回目11人)

協働(11/15)の講座では、永井美佳さんを講師に「公募型補助金・委託事業の申請にむけて」一般的な状況を聞きました。2回目(11/22)はサポートセンター独自の取り組みとして、実践講座「申請書を書いてみよう!~民間の助成金に応募してみませんか~」と題して、高槻ライオンズクラブの基金担当者や、これまでに助成金や事業申請・受託した団体からのレクチュア・体験報告も受けました。この受講者の中から、さっそく各種助成金申請をした団体も出ました

高槻市協働活性化モデル事業が終了します

新しい事業が始まります ~市民協働のまちづくり事業~

平成17年度から、3年にわたり続けられてきた、市民団体からの提案による「協働活性化モデル事業」が平成19年度で終了しました。これまでに応募数43件、うち採択された事業は17件(下記の表参照)。単年度で終了した事業もありますが、これを機に新たな展開をし継続している事業もあります。

今後は、新たに「市民協働のまちづくり事業」が始まります。この事業は、地域課題の解決や住民サービスの向上を図ろうとする市内の地域コミュニティ組織などの地縁型組織やNPOなどが、事業を立ち上げようとして、地域的に拡充・展開したりする事業に対して、市が協働するとともに必要な経費の一部を補助するものです。

*紙面の都合上、右表の事業名は省略しているものがあります。

17年度	間伐材でベンチを作ろう、原地区環境保全、子育てシンポジウムの開催 けやきの森植林事業、櫻田地区環境保全、生活習慣病予防レシピ作成と活用、 高校生・青年リーダーシップ講座と実践、多文化交流によるまちづくり、
18年度	公共施設での子育て支援、阿武野地区大型不法投棄ゴミ回収、 おはなし読書ボランティア講座、英語DEキャンプ、地域相互扶助(フレンズパーク)
19年度	「かけがえのない命」についての出前授業の実施、小学校の校歌を残そう、 地域力発掘!「子育て支援スタッフ」要請講座、演芸ボランティアのネットワーク事業

ワード機能、何%まで 使いこなせているかな?

情報誌・広報紙講座(参加者1回目14人・2回目9人)

こちら前半(2/2)は府と市の三者協働で、大谷隆さんを講師に「読者の心をつかむ!わくわくする情報誌・広報紙の制作入門講座」と題して、情報誌のあり方や作り方を学びました。2回目(2/9)の講師は日本機関紙協会大阪府本部の坂山崇保さん。実践編として「パソコンを使って、ワードで新聞をつくらう」と題して、実際に新聞の1ページを作ってみました。

ワードの機能活用が広がり、基本的なレイアウトや記事の書き方など、参考になりました。

これで会計処理もバッチリ!

会計相談会(参加団体6 参加者35人)

これまでは参加者全員に、NPO会計のあり方を説明してきましたが、団体により会計処理の仕方も異なり、疑問や問題点もさまざまです。そこで今回は、団体の会計の個別相談に応じることになりました。

講師は例年通りサポートセンター登録団体「パルケ高槻」の4名の方々をお願いしました。今まで不安ながらも処理してきたことが、これからは確信を持って対処できると好評でした。



多様なニーズに応える保育と一時預かり 期待されています



2008年4月1日、庄所子育てすくすくセンターがオープンし、高槻市の公共施設で初めて乳幼児の一時預かりがスタートしました。また、2004年から始まった市のファミリーサポートセンター事業は、利用者が年々増加しています。地域や家族・親族間の助け合いの中だけで子育てしていくことが難しくなっている中、子育て家庭の多様なニーズに応える保育や一時預かりなどの事業に取り組んでいる市民公益活動団体があります。3つの登録団体に取材しました。

子育て家庭の「あったらいいな」を形に...WSGチャムの「ママヘルパー」と「ようちえんごっこクラブ」 「赤ちゃんが産まれたけど、上の子をみてくれる人がいない」「抽選に落ちた、4歳なのに幼稚園に行けない」...WSG(ウィメン・サポート・グループ)チャムの子育て支援は、子育て家庭の「困った」を、「あったらいいな」に変えて形にしてきました。1997年から続いている「ママヘルパー」は、育児支援を欲する人と支援できる人が会員登録し、有償で助け合う活動で、産後の育児家事支援や、学校行事等のための一時預かり、保育所や学童保育、お稽古事の送迎などに利用されています。

また、「ようちえんごっこクラブ」は、もともと公立幼稚園落選組の4歳児の利用を想定して始められたもので、月曜日から金曜日の午前9時半から午後1時まで、親と離れて子どもを預け、幼稚園のように集団生活を体験させることができるプログラムです。希望に応じて週に1~5回の利用回数を設定できます。登園後の自由遊びの後、10時半からはリズム体操や工作などの設定保育、11時半からは昼食...。毎日、10名~20名程度の利用があり、最近では、私立幼稚園の3年保育の選に漏れたり、集団生活に慣れさせたいなどの理由から3歳児の利用が増えています。

(古首部町 685-6336)



ようちえんごっこクラブ

指定のリックやお道具箱もあって、気分はすっかり幼稚園

SEAN事務所に併設のKIDSステーション。一時預かりができます。



*詳しい利用条件や料金等は、各団体に直接問い合わせるか、団体のHPをご覧ください。

子どもが生まれてから自立するまでを支援する...NPO法人地域ひといきが運営する「大塚いきいき園」は、2006年に開園。子どもたちが、生まれた家庭と地域で健やかに成長できるよう支援していくことを目的とした小地域多機能型の保育施設で、乳幼児を対象とした日中の保育の他、学童保育の併設と、宿泊を含む夜間保育に対応している点が特徴です。児童虐待を含め、家庭内で起こる育児の悩みや問題の全てに対応していくことを目指し、心のケアとしてカウンセリングもおこなっています。

日中保育の定員は、現在、乳幼児20名、学童10名、保育所や学童保育の待機児童が多く利用していますが、就労状況に関係なく利用することができ、一時預かりもしています。小規模園ならではの、異年齢の友だちとのふれあいは魅力のひとつで、また、昨年度は、子どもたちの希望に応じて親子スキーツアーや、学童児対象に富士登山に挑戦したりしました。定員4名の夜間保育は、一緒にご飯を食べたりお風呂に入ったりと、地域の中の第2の家庭としての機能を備えています。

利用者の家族同士の親睦を図るとともに、地域の人々とのつながりを強めるために、地域の人も参加できるふれあい遠足や、夏祭り、餅つき大会などにも取り組んでいます。

(大塚町 647-8955)

いきいき園のある日の保育風景。大きな紙に絵を描いて壁画作り。



完成! 園の廊下を飾っています。